

東欧 2ヶ国訪問記 —その2—

天谷 和夫 (東京都/群馬大学)

4. ポーランド

①初日、クラコフに立ち寄り地下岩塩鉱山、気象研究所、大気汚染監視センター見学

ポーランド訪問は今回で5回目、最後に訪問した1987年9月から7年半ぶりであった。クラコフ駅は改造され大きく変わっていた。

現地のエコツアー会社の案内であらかじめ計画されたスケジュールにもとずいてクラコフ周辺をまわった。まず有名なヴァリチカ地下岩塩鉱山を訪れた。以前にくらべて観光用に改造がなされていた。岩塩でつくられた彫刻がいたるところにあり、規模の大きさ、13世紀以来という歴史の重さを感じさせられた。気象研究所ではドップラーソーダやレーザーを使った気象調査研究の結果を伺った。つぎに大気汚染監視センターを見学した。この施設はブッシュ元アメリカ大統領から贈られたものだそうで、市内数カ所での測定局からリアルタイムでデータが送られ、コンピュータ処理されていた。以前訪れた時は、手分析による測定しか行われていなかったが自由化後の大きな変化のひとつである。固定発生源はこの監視センターで何とか把握できるようになったが、自動車の排気ガスについては全く手がつけられていない状況であるという。昼食時に立ち寄った市の中心マーケットスクエアには発光ダイオードを用いた大きな大気汚染の表示板があり現在の値ばかりでなくそれ以前の何時間かの時間変化や、基準値をこえているかどうか色が一目でわかるようになっており、日本と比べてできるだけ多くの情報を伝えようとする工夫が感じられた。クラコフでの予定を終え、夕方カトヴィツに到着。

②カトヴィツ滞在、セミナー開催、環境関係機関、アウシュヴィツなどの訪問

カトヴィツではシレジア環境基金というNGO

の世話になった。シレジア地方はポーランドでも古くから栄えた有名な工業地帯で、石炭、鉄鉱などの地下資源が豊富に存在する。カトヴィツはその中心都市である。以前鉄道で通過したことはあるが訪問は初めて。その時は車内にも石炭特有のツーンとした臭いが鼻をついたが今回はそのようなことはなかった。あとで聞いたことだが、環境対策が進んだのと、駅前にある製鉄所が一時休止しているため大気汚染は以前より改善されたとのことである。以下カトヴィツ滞在中経験したことを述べる。

12年前サマースクールで紹介した簡易測定法に改良を加えて行政が積極的に活用

ここでのセミナーの内容もブタベストとほぼ同様のものであったが、特に違った点だけ述べる。私が12年前1982年に初めてポーランドを訪れ、全国大学生のサマースクールで大気汚染、水質の簡易測定を紹介した際、これに参加し引き続いて大学院生として簡易法を研究テーマとし博士課程を終え、現在クラコフ工科大学の助教授をしているDr. Krochmalがセミナーに顔をみせてくれた。現地でも独自の方法で改良を加え行政的に積極的に活用しているとのことでポーランド製の捕集管をサンプルとしていただいた。また彼はアメリカや中国などのこの種のサンプラーも見せてくれ、国連では近くこの簡便で信頼性のある方法で世界的な環境調査を行う計画だと状況を教えてくれた。カトヴィツ地区でこの方法を用いた調査の報告書を一部いただいた。自分の紹介した技術が育ち、有効に生かされているのを知ってたいへんうれしく感じた。それに引きかえ日本では同じ方法がなぜ広く活用されないのかはがゆく感じた。

常時測定局と同じ場所で比較測定

カトヴィツには10局の常時測定局があり、その中の6局にこちらから持参したNO₂サンプラー

をセミナーの前日に取り付け約1日暴露し、測定した結果をセミナーで報告した。各地点3個のサンプラーを取り付けたがばらつきは極めて小さかった。最高0.022PPm、最低0.005PPmであった。毎日この程度なのかわからないがきれいであった。なお、現地の自動測定局のデータは間に合わず比較できなかったのは残念であった。しかし、このように自由に行政の測定機と比較測定をさせてもらえるのが当然なのであろうが、日本では同じことかなぜできないのか、日本に帰ってガラス張りの行政、情報公開のために努力せねばと感じた。

カトヴィツでは土壤汚染が深刻、限られた経費で重点対策

カトヴィツの工業地域環境研究所を訪れたとき聞いたことだが、シレジア地方は公害環境問題など全く念頭になかった時代から200年近くも探鉱冶金を中心とする重工業で繁栄し、現在に至っているため表土は重金属で汚染され、野菜、穀類などその土地で育った食物にはこれらの重金属の含有量が高く、人体への重金属の摂取をできるだけ少なくするよう行政が努力しているという。食物中のこれらの含有量を示した啓蒙用パンフレットがつくられている。

本来なら汚染した表土を全部入れ替える必要があるが、現実には不可能で膨大な金がかかるのでこのような土地改良は保育園、学校など最も対策が急がれる所から重点的にやっていくより仕方ないという。環境データは新聞テレビで公表しているとのこと、発生源のデータは政策上公表していないとのこと、理由は公表してもどうなるものでもない（効果がない）とのことだが疑問に思った。また、炭鉱から出る大量の塩水は河川に大きな影響を与えているという。

アウシュヴィツ、ビルケナウ収容所見学

近くにある有名なアウシュヴィツ収容所を見学した。アウシュヴィツに来たのは3回目だが、今回は専門の説明者がついてくれたので初めて知って驚いたことがあった。それはアウシュヴィツの隣にビルケナウというアウシュヴィツよりもっと

規模の大きい収容所があった。復興基金を得るために壊されたが、現在でも近くのと土を掘り返すと人骨のかけらが出てくると言って、細かい白いかけらをそこで実際に見せてくれた。現在でも残る人骨は当時いかにたくさんの方が殺され、焼かれたか改めて戦争の悲惨さを私たちにひしひしと感じさせた。

5. おわりに

海外国を訪問し日本を離れるとふだんわからない日本の状況が見えてくる。今回は阪神大震災直後のことで日本の行政の問題点が一気に吹き出したことと重なって一層強く感ずることがあった。今まで日本の行政は「自分たちがやる、また自分たちでやれる」という態度で一般市民ボランティアを軽視していた。地震などの緊急事態にそれが誤りであることが明らかになった。環境問題は地震のような緊急性はないが行政だけでなく多くの一般の人々の協力なしには解決できない大きな問題である。これらの人達の意見を容れ、協力を得てすすめていかなければならない。

道路、廃棄物処分場、その他開発事業の環境アセスメント、事業の進め方に見られる住民無視、情報かくし、大気汚染の速報値非公開など多くの人々が感じている行政の姿勢を今こそかえていかねば問題は解決しない。

今回の東欧訪問で大気汚染の情報公開周知などの点で日本が大きく遅れていることが感じられた。

大気汚染の簡易測定法も開発がすすみ、基準測定器、簡易自動測定機が完成した。これらの技術的な成果を活用して行政の測定局の点検を行い、信頼性がないから公表できないという速報値非公開の口実を取り除きPAPIONシステムを復活させて大気汚染情報を一般市民に周知させるばかりでなく、一般市民の手で常時監視網をつくり、これを充実させていくことができる。具体的には協同総研がめざす仕事おこしのひとつとして、素人でも管理が可能な大気汚染簡易自動測定機を多数の地点に設置し、行政に支援も得ながら市民に

よる大気汚染常時監視ネットワークをつくって
いく運動を各地ですすめるよう提案したい。

首都東京や大阪で今回選ばれた無党派の知事を
一人一人の市民が支えていく手段のひとつとして
活用することができる。このような手掛かりを通
して環境行政を手始めに大企業のための行政から

一般市民のための行政にかえていく展望をもつこ
とができる。

協同総研の仲間たちがこの提案を議論し、早急
にこの具体化に向かって活動を開始することを願
って東欧訪問記のむすびとしたい。

95年度補助金申し込み締め切り迫る ★95年6月中旬★



太陽光発電

あなたの家もクリーンエネルギーの
小さな発電所

システム

★国の援助を受けるチャンス/
新エネルギー財団が「太陽光
発電システムモニター」を募
集します。モニターになると、
設置費用の約半額が援助され
ます。

★屋根の上の太陽パネルが
生み出した電気を家庭内
で使えます。

★余った電気を電力会社に
売ることができます。

★エコテックは94年度モニ
ター募集で、設計から施
工まで経験済みです。

★ソフトエネルギー関連機
器取扱い、太陽光パネル
など部品販売もします。

ワーカーズコープ エコテック

〒222 横浜市港北区篠原町3014-2加祥ビル5F
TEL.045-432-9000 FAX.045-432-8096

エコテック 関西オフィス

〒615 京都市右京区西院西淳和院町49西京ビル20
TEL.075-316-4450 FAX.075-316-4451